

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	平成 28年 1月 30日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年 2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・当ホームは手足の守り神として有名な「足手荒神さん」（甲斐神社）のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地の中、そして田園風景も広がる自然豊かな環境の中にあります。「小規模多機能事業所」との併設で顔見知りの利用者間の交流や合同行事を行っています。また地域の縁側「どぎゃんね」も同敷地内にありダンス、コーラス、子育てサークルの方々が日常的に利用され、地域の方含め、事業所内にも気軽に訪問されます。職員は、ボランティア活動にも積極的に向き、地域の方とのコミュニケーションを大切にしています。暮れの餅つき会には毎年150名程の参加があり、小学校から椅子、テーブルをお借りしての恒例行事となっています。医療面では近くに協力病院があり、日々の相談、緊急時の協力体制が整っており安心して繋がっています。訪問歯科利用をして気軽に相談をさせて頂いています。又、法人は自家農園を持っており、自家米、新鮮採れたて野菜を食卓に提供しており「おいしい」と好評です。ご利用者と職員一緒に裏庭に野菜を植えたり、手入れをしたりして、収穫の喜びを味わって頂いています。認知症になっても馴染の顔、馴染の環境の中で、安心して暮らしていただくように支援していきたいと職員一同頑張っています。</p>
--

tou

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、手足の守り神として有名な『足手荒神さん』の隣りに位置しており、大祭時には大勢の参拝者があり、利用者との交流継続の窓口ともなっている。また事業所敷地内には、地域の縁側（集会所）が設けられており、習字教室やフリーマーケット会場として地域の方に利用されている。事業所の玄関前では、子ども達の遊ぶ姿が良く見られるそうです。またソフト面では、何か事があった場合などは、その職員を“一人ぼっち”にしないで、他の職員も交えて話し合い、悩みをシェアすることで、ストレスを一人で抱え込まないような取り組みを行っている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで考えた理念を揚げ、毎月のミーティングで振り返りを行い意識の統一をしている。毎朝の申し送り時に「理念と行動指針の唱和を行い、一日の始まりに気持ちを新たに引き締めている。	理念の作成には職員も参加しており、職員ひとりひとりの思いが込められたものとなっている。とりわけ第一項には「今、この一瞬」を仲間と共に楽しく生きようと謳われており、管理者からは、この一瞬の意味を全職員がしっかりかみしめ、ケアの中で具現化できることを目指しているということでした。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	餅つき会、敬老会はこちらからの呼びかけで、地域の方からもフリーマーケット、等への開催も縁側利用がある。清掃活動、小学校行事や、フッ素うがいのボランティア参加などこちらから出向いて行き、交流を図っている。	事業所は、地域の一員として清掃活動や奉仕活動にも参加している。また同敷地内には、地域交流施設（縁側）が併設されており、そこでは児童の習字教室やクラフト教室、最近ではフリーマーケットなども行われ、地域との交流の窓口となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の実践を活かして、認知症の知識、対応、介護施設の種類・選び方、等を老人会例会に出向いて行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回奇数月第3金曜を原則に開催し、今年度1名交代があり、家族会会長、副会長、入居者にも参加して頂いている。入居者状況、活動内容、勉強会内容報告、質の向上に向けて積極的に意見を言っていたらいい。	参加メンバーは、左記の他に地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、老人会長、民生委員などとなっている。管理者からは、困った時には地域の人にも助けを求めようとしているとの話があり、実際に利用者と外出中に近くの民生委員に協力を求め、車を取りに走った事もあったということでした。このことは、事業所が日頃から情報の公開に努め、地域との交流に取り組んでいる証ではないかと思います。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に社協、地域包括支援センターの参加があり、入居に関して相談・報告をその都度行っている。運営推進会議での資料・議事録を提出して良好な関係を築くように努めている。	社会福祉協議会や地域包括支援センターと良好な関係を築いており、地区に地域包括支援センターには元役場の出身者もおられるとの事で、相談や報告が必要な場合は、その都度行っている。また、会議の資料や議事録は介護保険係に提出している。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・管理者、介護従事者共に研修参加に努め、ミーティングの場で共有し、周知徹底を図っている。リスクマネジメントを考えたケアに努め、問題が起きたら直ちにミーティングを開き、原因・対策について全員で取り組んでいる。</p>	<p>研修会の案内は頻繁にあるようで、出来るだけ参加するようにしている。参加方法も勤務時間内で行っており、参加職員には真剣に受講することとミーティングでの複講を課している。また禁止用語を使用しないことと、業務本位にならずに利用者の気持ちに寄り添った支援を目標としている。玄関の施錠については防犯上の観点から夜間のみとし、日中は自由に入出りできる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・管理者、介護従事者共に研修の機会があれば参加して周知徹底を図っている。問題になるように感じた時は、職員間でも注意し合える環境作りに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・管理者・介護従事者は研修の機会を活かし周知徹底に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・十分に理解されるように説明を行っている。もしわからないことや疑問に思われることがあれば気軽に尋ねて頂けるように配慮している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・職員と利用者家族とは節度を持った信頼関係が継続するように努めている。家族会、家族忘年会（家族会主催）を行い言いやすい雰囲気での、家族の思いを聞き出すように努めている。苦情までは行かなくても、不満めいた意見には申し送りノート等で情報を共有している。<u>ご意見箱</u>を玄関に設置しているが中身は入っていない。</p>	<p>事業所では、敬老会に合わせての家族会や家族忘年会（家族会主催）を行っており、家族とのコミュニケーションづくりに取り組んでいる。また管理者も、預けているから言いにくいだろうと分かっており、家族会や忘年会、面会時等いろいろな機会を通じて、意見や要望の言い易い雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	<p>家族からすれば思っても言いにくいとか、遠慮がちになるといことは、往々にあると思います。サービスの質の向上を目指す上でも、今後とも意見や要望、また苦情等の言い易い環境づくりを進めて欲しいと思います。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は職員とのコミュニケーションを大切に事あるたびに話しやすい雰囲気の中でモチベーションアップに繋げている。定期的に面談を行うように努めている。</p>	<p>管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを大切に考えており、何かあった場合などは職員を一人ぼっちにしないよう他の職員も交えて話し合うようにしている。職員からの話でも、いろいろ教えてもらい、話しやすいという声が聞かれた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・年2回自己評価をして、個人のレベルにあった目標設定を自ら行い、意欲を持って働くことができるよう、それを賞与に反映している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・定期的に法人内での研修実施し、外部研修への参加も促している。月1回のミーティングで自ら勉強会を開催、他人に伝えることで自身の成長に繋がっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・郡内の研修会に定期的に参加しており同業者同士の意見交換、情報交換、相互訪問を積極的に行っている。自施設にも取り入れサービスの質の向上に繋がっている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人、家族の情報からニーズを探り、思いを汲み取るようにしている。本人の不安や要望を、細かな気づきから本人を知り、信頼関係を築くように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・初期の段階から家族とのコミュニケーションを大切に、日々の活動や生活の様子を見ていただき信頼関係に努めている。それによって家族が困っていること、不安、要望を汲み取るようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談を受けた時、当事業者だけでなく法人全体のサービスや、その他の介護サービスを視野に入れて、本人に必要なとされるサービスとなるように初回面談を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・縁あって同じ時間を共有し、介護される役（本人）と介護させていただく役（職員）になった訳で、お互いを尊重しあう役割り関係で成り立っている。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・介護される本人を真ん中に、職員と家族が協働して本人を支えている気持ち、家族にしかできないこと、職員ができること、それぞれの立場を十分生かして、チームとして支援している。</p>		

20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・昔から馴染んでいる「足手荒神さん」への参拝や、散歩の際には地域の方から声掛けがあったりする。表札や家並みや変わらない道路などで昔の記憶が甦り、昔話に花が咲く。散歩に出ることで馴染みの人や場所との関係が続くように努めている。	「足手荒神さん」の大祭の時には、毎回友人の訪問がある利用者さんもおれら、その際にはお茶やお菓子を出して歓迎している。また馴染みの床屋に行き、その序でに姉妹宅を訪問してこられる利用者さんもおられるとの事で、送迎の支援を行っている。現在事業所では、その人の好きな事を月に1回行おうと目標を立てて、取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・テーブル座席の位置に気を配り、それぞれがストレスに感じないように、時には職員が間に入り、利用者間が気持ちよく過ごせるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や死亡の際はこれまでの関係性を大切に思い、必要に応じて伺うようにしている。利用が終了しても後悔しない様、その時できる精一杯のことを行っている。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入居され時間が経つ毎に本人のこだわりの生活が見え、それを尊重するようにしている。職員が情報を共有して本人の思いに沿った生活ができるように支援するように努めている。	利用者にしっかり寄り添う中で、初めて見えてくることがある。例えば、服薬ひとつにしてもこだわりがあったり、こう言ったけど実際は違うんじゃないかなあ・・・等良く聞いてみると本音が見えてくることもある。出来るだけ、本人の思いに沿った支援が実現できる様取り組んでいる。	会話が困難で、思いや意向の把握が難しい場合でも、思い込みや分かったつもりにならず、本人はどうかという視点で話し合いを試みてはいかがですか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人・家族との会話の中から、これまでの暮らしぶりや習慣、好きな事、嫌いな事などの情報収集を行い、安心に繋げるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常生活の中で、できることや本人の好きなことを把握して、ケアに反映している。野菜・花を植えるなど土いじりが好きな方と花壇に苗を植えるなど。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回はスタッフでモニタリングを行い、状態を把握している。日頃から本人・家族・必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、管理者が主体となって作成しており、家族の面会時等を利用して要望の聞き取りや話し合いを行っている。必要な場合には、PTやOTにも意見を聞いている。また、毎月のモニタリングを実施しており、利用者の現状把握と職員間の共有に取り組んでいる。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日頃の様子や気付いた事は、ケース記録や申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。様子を見ながら、現状に合った介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本来の家族の希望・その時の本人の状態を考え合わせ、法人内の事業所、又は他の事業所と協力してサービス提供にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の方が、畑で採れた野菜を差し入れされたり、遊びに来られたりする。馴染の関係を継続しながら、地域の一員として安心した暮らしを続けることができる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診は本人・家族の希望を確認しながら支援している。家族の受診協力を頂いているところは、病状をDr宛の手紙、又は口頭にて伝えてもらっている。認知症専門医受診は6名である。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。事業所の場合、母体が医療機関ということもあり、緊急時の対応や家族の安心感から、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。専門医受診等で家族が付き添う場合は、日頃の状態のメモや口頭で伝え、適切な医療行為が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力病院の看護師とはいつでも気軽に相談ができ、必要なアドバイスもあり早期の対応に気を付けている。必要時は看護師の顔を見るだけで安心の表情となり、散歩がてらに病院へ出掛け、安心に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者の状態変化に気づき、入院しても安心した治療ができ、退院後の生活が安定したものとなるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、そうした場合に備えて関係作りに備えている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・年齢や本人の状態、本来の性格、生活の様子から終末期のあり方、家族の意向等を確認するようにしている。家族との信頼関係を築いた上で、事業所としてできる事を十分に話し合い、納得をいただき方針を共有し、医療、看護、介護等関係者がチームとなり支援している。	重度化に向けた取り組みとして利用者の状態を見ながら、必要な場合には家族に来てもらい、事業所として何が出来るか等を十分に話し合い、今後の対応を検討するようにしている。看取りについては実績はなく、今後についても現状では未定とのことである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日頃から急変時の対応を意識し、その時には慌てず対応できるようにマニュアルを作っておく。勉強会においても定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災・避難訓練を実施しており、日頃から安全についての意識付けを行っている。運営推進会議にて参加の声掛けを行い、近隣の方の参加がある。火災に対し、火を出さない予防意識と、有事の際は落ち着いて行動するように促している。	利用者も参加した避難訓練を年に2回実施しており、その内1回は消防署指導のもと行っている。消防設備業者については、2回とも参加してもらっている。近隣の協力体制づくりについては、運営推進会議で声掛けを行っており、近隣の方と民生委員の協力が得られている。災害への備えについては、食料の備蓄は行っているが、防寒対策については現段階では行っていない。	災害の発生に対して、利用者の確実な避難誘導が求められています。日頃の訓練の重要性を再認識し、地域の協力体制づくりに、更に取り組んで欲しいと思います。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・地域内の職員も多く、個人情報とプライバシーの一つ一つが不本意に漏れたりしないように気を付けている。職員と家族は顔見知りも多く、その言葉使い一つにも節度を持って接するように日頃から意識している。	接遇についての勉強会を行っており、失礼のない言葉使いや誠実な態度での対応を心掛けるようにしている。また事業所の場合、地域内の職員が多いことから、個人情報の漏えいやプライバシーの確保には、特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・「自己決定できる」に重点をおき、本人の思いを推察し、選べる雰囲気を持つていく。 ○か×で簡単に選ぶ等、会話の中で「自分で決める」ことにこだわっていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床、就寝、食事時間などその人のペースを尊重できないことを手伝うようにしている。職員は余裕の気持ちで対応し、家族にも情報収集し、希望に沿うように努めている。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・服は基本的に本人に決めていただくが、選択しやすいように提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物と一緒に買って、食べたいものを選んでもらい希望に沿った調理をしたり、一緒に買い出しに行ったり、野菜の皮をむいたりできる手伝いはして頂いている。	食事の準備や片づけの出来る利用者は、徐々に少なくなってきており、買い物と一緒にに行ける方や野菜の皮むき等が出来る方は現在1名程度となっている。食事形態では、全介助の方が1名で、見守りが必要な方が1名程度となっている。その他は、おかずを刻みにしたり、ご飯をおかゆにしたりと、その人の能力に合わせた個別対応を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人に合わせた食事形態、食事量栄養バランスに気を付けて支援している。水分摂取については偏らないよう、甘すぎないように注意しながら楽しんで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時やうがい、毎食後の口腔ケアは徹底しており一人一人の力に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・トイレでの排泄を多くする為なるべくトイレへ誘導している。認知症の進行や内服状況から推察して、その表情などに気を付け、パターンを知ることで、失禁による不快感、経済的負担を軽減している。	今現在、ほぼ自立している方が3名、その他の方は一部介助や全介助での排泄を支援している。声掛けのタイミングとしては時間によるものが多いようであるが、薬の影響を考慮したり、態度や表情などひとりひとりのパターンを知った上で支援することで、失禁の対策や経済的な負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事、運動、水分、ヨーグルト、毎朝の牛乳、食物繊維を多くとる等に気を付けて、なるべく薬に頼らないよう心掛けている。必要な時は下剤使用しているがこまめにその変化に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・週に2.3回の入浴を行っている。清潔保持の為と楽しみな部分とその方に合った対応を行っている。しょうぶ湯、ゆず湯、入浴剤など時々行い、楽しんでいただいている。	利用者の特徴や好みを知った上で支援することがとても大事だとの事である。事業所の場合、入浴を拒否される方も、同性でないとダメと言われる方もおられないようである。しょうぶ湯やゆず湯、また入浴剤の使用などがとても喜ばれているようである。	

46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・夜間良眠に繋げるためにはどうしたらいいか、日中の過ごし方を含め情報の共有に努めている。自宅で愛用していた寝具を持参してもらったり、本人の生活習慣を考えた支援をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・病気の理解と処方されている薬をスタッフ自身が勉強して状態変化の有無を観察している。変化があり本人にとって困ることがあれば、記録してDr、Nsの報告・相談し情報の共有をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・自分にできる事、手伝いをスタッフと一緒にやる。気分転換の為に好きな買い物に出かける、を定期的に行う、等の支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・その日の天気、体調に応じ積極的に外へ出かけるようにしている。散歩を兼ねた買い物や行事での外出時は、家族の応援が必要で声掛け一緒に出掛けている。自由に外へ出たい方には地域の見守りは欠かせず、協力を頂いている。</p>	<p>事業所は、緑に囲まれた足手荒神さんに隣接しており、いつでも行き来できる恵まれた環境にある。その為、天気の良い日には体調を見ながら、日常的に外出支援を行っている。また、買い物や行事で外出する際には、家族に応援をお願いしている。家族も協力的のようである。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・玄関先に自動販売機があり、好きなコーラを1日1本買うことが楽しみな方がいる。定期的な買い物に出かけ、自分の好きな物にお金を払う、に付き添っている。お小遣いを家族に理解してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・電話の使用は可能である。誕生日のプレゼントや差し入れの贈り物など、届いたらお礼の電話に付き添い、手紙を書く手伝いを行っている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・玄関には家族持参の季節の花があり、昔本人が育てていた花とのこと。匂いにもアロマを使うこともあり不快に思われないように配慮している。共有スペースの居間は南側に面して、日光浴に喜ばれる。花壇には地域の方が花植えをして下さり交流している。</p>	<p>利用者の皆さんが集われるホールは南向きに設計されており、しかも遮るものがない為、日当たりが良く、穏やかな空間となっている。また室内環境にも配慮しており、除菌噴霧器を設置し、感染予防や健康管理に努めている。玄関、廊下、水廻り等、清掃が行き届いており、異臭などについては全く感じられなかった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・利用者同士の相性も考え淋しい思いにならないように、配慮して過ごしてもらっている。また自由に居室とホールを行ったり来たりして過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い慣れた寝具、写真や家具を持ち込み、安心して居心地の良いお部屋となるような環境づくりに努めています。</p>	<p>居室の基本的な設備は、ベッドと空調機器となっており、寝具や収納家具、その他調度品などについては持ち込む必要がある。そこで事業所としては、新調することなく今まで使用してきた馴染みな物を持参してもらう様勧めている。また、壁面に家族写真等を貼って、部屋作りをすることも可能となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・名札があって居室を確認している方、なくても方向や内部の様子で自室がわかる方、を見極め安全に自立した生活を支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない